

6. 一過性全健忘発作中の脳 SPECT について

桂木 誠 筒井 竹人 島村 易
 野崎 善美 船津 和宏 黒木 嘉典
 西原 春實 (聖マリア病院・画像診断)
 郷田 幸治 岡田 靖 (同・脳血管内)

一過性全健忘 (transient global amnesia) の 2 例 (58 歳女性, 19 歳男性) について発作中に脳 SPECT を行う機会を得た。2 例とも左側頭葉下部にごく軽度の集積低下を示していた。前者では回復後の検査で左右差が明らかでなくなっていた。TGA の成因として, TIA, てんかん, 片頭痛などの見解が示されているが, 今回の 2 例は軽微な変化でこれらの見解に必ずしも十分にあうものではなかった。2 例のみの経験で原因について言及できるものではないが, 神経自体のなんらかの機能異常 (伝達物質などの異常?) が原因である可能性も考えられるように思われた。

7. 悪性黒色腫における ^{123}I -IMP シンチグラフィ

小川 洋二 木下 博史 林 邦昭
 (長崎大・放)

悪性黒色腫 32 例に対し ^{123}I -IMP による全身シンチグラフィを, のべ 67 回, ^{67}Ga シンチグラフィを, のべ 59 回施行し, 両者を比較した。原発巣に対する集積を認めたのは, ^{123}I -IMP では 14 例中 6 例 (43%), ^{67}Ga では 10 例中 4 例 (40%) であり, ほぼ同等の集積率であった。転移巣に対しては, ^{123}I -IMP は 13 病変中 4 病変 (31%) に集積を認めたのに対し, ^{67}Ga では 14 病変中 10 病変 (71%) に集積がみられた。 ^{123}I -IMP と ^{67}Ga のいずれが有用であるかは症例によって異なり, 生理的集積と重なる部位は両者とも診断の上で問題があった。 ^{123}I -IMP は, 当初期待されていたほどの陽性率はなく, 特に転移巣に関しては, ^{67}Ga の方が優れている可能性が示唆された。

8. ^{201}Tl 心筋シンチにて右室負荷所見を認めた Noonan 症候群の一例

西春 泰司 富口 静二 原 正史
 木下 留美 大山 洋一 古嶋 昭博
 高橋 睦正 (熊本大・放)

Noonan 症候群は比較的稀な疾患で, 心奇形の合併する頻度が高い。今回われわれも Noonan 症候群で心筋シンチにて右室描出を認めた一例を経験したので報告する。

症例は 41 歳男性で, 小学校時代より心疾患を指摘され, 中学校時代に ASD と PS と診断された。今回, 生活保護再開の判定のため某医受診し, 精査のため当院循環器内科入院となる。入院時, 低身長, 耳介低位, 両眼隔離, 翼状頭等を認め, 第二肋間胸骨左縁に収縮期雑音を認めた。入院後, 心筋シンチにて右室壁の描出を認め, MRI にて ASD, 肺動脈の拡張, 右室肥大を認め, 右房造影にて肺動脈弁性狭窄と診断された。心筋シンチにおける右室の描出は, 肺動脈弁狭窄による右室負荷を反映した所見であった。

9. $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -Teboroxime による心筋シンチグラフィ
——三検出器型 SPECT 装置による解析——

佐々木雅之 一矢 有一 桑原 康雄
 大塚 誠 福村 利光 川井 康裕
 増田 康治 (九州大・放)

新しい心筋シンチグラフィ用薬剤である $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -Teboroxime (SQ30217, TEBO) の有用性を, 東芝製三検出器型 SPECT 装置 GCA 9300A にて検討した。対象は TEBO を施行した 24 例中 GCA 9300A を使用した 14 例である (狭心症 5 例, 心筋梗塞 2 例, 肥大型心筋症 3 例, その他 4 例)。データ収集は, 連続回転モード (1 分間/フレーム) にて行い, 8 分以内のデータより SPECT 画像を再構成した。 $^{201}\text{TlCl}$ 画像との比較では specificity がやや低値であったが, sensitivity は同等であった。4 例では心筋の時間放射能曲線より心筋クリアランスの検討を行い, 虚血心筋, 心筋症症例にてクリアランスの遅延を認めた。以上の結果より, $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -Teboroxime は心筋血流の評価に有用と考えられた。